



北海道では毎年、ひぐまによる農作物の被害が報告されています。特に、8月から9月にかけて、ひぐまはデントコーン（飼料用トウモロコシ）を好んで食べるため、農家さんにとって大きな問題となっています。デントコーンは甘みがあり、栄養価が高いため、ひぐまにとって魅力的な食糧源です。しかし、この時期の被害は農作物の収穫に重大な影響を及ぼし、農家さんの経済的損失をもたらします。そこで、ひぐまによるデントコーンの被害を削減するための方策について考えてみましょう。

1. 電気柵の設置

電気柵はひぐまの侵入を防ぐための有効な手段の一つです。設置する際は、電圧や柵の高さ、密度などを適切に設定することが重要です。特に、ひぐまが電気柵の下をくぐらないように地面から20センチメートル間隔で電線を設置することが推奨されます。しかし定期的な点検とメンテナンスが必要なため、作付面積の大きな北海道ではその労力が課題となっています。

2. 音・光・臭いを利用した追い払い

ひぐまは警戒心が強く、突然の音や光に驚いて逃げる習性があります。この特性を利用して、音や光を使った追い払い装置を設置する方法があります。また、ひぐまが嫌がる臭いを

畑の周囲に散布することで、ひぐまの接近を防ぐ方法もあります。

3. 環境整備と早期収穫

ひぐまの侵入を防ぐためには、畑周辺の環境整備も重要です。例えば、雑草や低木を取り除き、見通しを良くすること、ひぐまが隠れたり、近づいたりするのを防ぐことができます。また、デントコーンの収穫時期を早めることで、ひぐまが食べる前に収穫を完了させる方法も有効です。ただし、収穫を早めることで品質や収量に影響を与える可能性があるため、適切なタイミングを見極める必要があります。



上川町のある農家さんはデントコーン被害に悩んだ結果、デントコーンの代わりに「ソルガム」という作物を育て始めました。「ソルガム」はイネ科の植物で、牧草と同じような栄養価で収量が各段に多い飼料作物だと言われています。ソルガムの栽培を始めて一年後、ひぐまが寄ってこないことが確認されました。しかしひぐまは食物への順応力が高くこれまでもたくさんのお味を覚えてきたため、今後も注意深くヒグマの態度を観察し対応することが求められています。